

野球とマラソンと温泉と

まつやま
松山市長(愛媛県) **野志克仁**
の し かつひと
Katsuhito Noshi



『夏草やベースボールの人遠し』

右のサブタイトルは、今年生誕150年を迎えた、松山出身の俳人、正岡子規の句です。子規は、難病と闘いながらも、34歳の若さで亡くなるまで、俳句や短歌などさまざまな分野で文学の革新運動に取り組みました。

幼名の「升(のぼる)」にちなみ、「野球」と



神宮球場で始球式をする筆者

かいて「の・ぼる」と読む雅号も用いました。この「野球」という表記は、子規が日本で初めて使ったといわれており、「打者」「走者」「直球」「飛球」など現在も使われている多くの野球用語も生み出しています。

野球を詠んだ俳句や短歌は数多く、記者時代には新聞でも紹介し、野球の普及に多大な貢献をしたとして、没後100年の平成14年に野球殿堂入りを果たしました。

松山市は東京ヤクルトスワローズさんの秋季キャンプ地です。そのご縁で、松山のPRと合わせ、毎年、本拠地「神宮球場」で、始球式をさせていただいています。幼いころから大好きだった野球、まさか自分がプロのマウンドでピッチングを行えるとは思ってもみませんでした。マウンドに立つと傾斜もあるからでしょうか、ホームベースまでの18・44mが実に遠く感じます。2万人を超える観客の視線も集まります。松山商業野球部やPL学園野球部出身の職員の指導のおかげで、中学野球部補欠の私が、



マラソンに参加する筆者

今年はずつとストライクが投げられるようになりました。夢が1つ叶った瞬間でした。松山は文学的土壌が豊かな街であると同時に、スポーツも盛んです。私もスポーツは何でも好きで、趣味は「スポーツ観戦」。そんな中、市長になって始めたスポーツがあります。マラソンです。

松山市では、愛媛マラソンという全国屈指の人気を誇る市民マラソンを開催しています。直近の大会では、全47都道府県と海外から2万2565人のエントリーがあり、抽選で1万2001人のランナーが早春の伊予路を駆け抜けました。スタートは現存12天守の松山城下。市街地から郊外へと向かい、海や山の自然も楽しめます。

運営は3200人を超えるボランティアスタッフが支えられ、沿道の途切れること

のない声援や地元の名産などのふるまいでも、四国遍路ではぐくまれたおせったいやおもてなしの心を感じていただけます。

シドニーオリンピック金メダリストの高橋尚子さんも、平成24年の第50回大会から5回にわたり参加してくださり、走って楽しかったマラソン大会5つのうちの1つに選ばれました。

スポーツには、「する人」「見る人」「支える人」の3つの側面があると言います。

前の仕事も含め「見る人」は経験済み、市長になって給水所のボランティアを中学生と一緒にさせてもらい、「支える人」も経験させていただきました。残るは「する人」のみ。大会の盛り上げのお役に立てればという思いで、平成26年に46歳で初めてフルマラソンにチャレンジし、以来、いつも5時間台で決して速くはありませんが、4年連続完走しています。

マラソンは自分との闘いです。折り返し地点を過ぎてからは、身体がキツくてたまらなくて、心の中で、「止めたい」「止めたいかん」の繰り返し。精神修行です。その度に「市長、がんばってー！」という市民の皆さんの声援と笑顔に背中を押され、ゴールを目指します。

『10年の汗を道後の温泉に洗へ』

右記は、子規が後輩の大学卒業を祝い、その苦勞をねぎらった句です。道後温泉

「椿の湯」の男湯湯釜に刻まれています。

松山には汗をゆつくりと流し、疲れを癒やす温泉があります。私は、昔から歴史が好きで、将来の進路として日本史の教師を考えたこともあったほどでした。歴史を重ねてきた道後温泉の魅力は今に伝え、未来につなげる仕事は、私にとってやり甲斐があるものです。

日本最古の温泉といわれる道後温泉のシンボル道後温泉本館は、公衆浴場では初めて国の重要文化財に指定され、全国から年間80万人を超える入浴客が訪れます。改築123年を経たこの松山の宝を後世に引き



ミシュランガイド(観光地)日本編で3つ星にも選定された「道後温泉本館」

継いでいくため、保存修理を予定しています。着工は、早くても平成30年秋以降で、営業しながらの工事です。また、その時しか見られない工事の風景を楽しんでいただきます。

一方、平成29年9月、道後に公営では33年ぶりに新たな温泉施設「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」が誕生しました。

魅力は、本館と同じくまず泉質です。全国でも珍しい、加温加水をしていないお湯。20度の冷泉から55度の熱いお湯まで18本源泉があり、これを絶妙に組み合わせる適温のおよそ42度にかけて流しています。

外観は、西暦596年に聖徳太子が、661年には女性の帝である斉明天皇が道後にお越しになった歴史から、飛鳥時代の建築様式を取り入れた湯屋がコンセプトです。

館内のテーマは太古の道後。愛媛を代表する伝統工芸士や匠の皆さんが、道後温泉にまつわる物語を、「愛媛の伝統工芸」と「最先端のアート」をコラボレーションした作品で装飾や展示しています。「温泉の癒やし」と「感性の刺激」をお楽しみいただけます。

道後湯之町初代町長伊佐庭知矢は「どうせやるなら、100年先にも他所が真似出来ないものを作ってこそ、そのことが物と言う」との熱い思いで道後温泉本館を改築しました。その思いを継承し、100年先まで輝き続ける新たな温泉文化を発信する拠点を目指します。